

「スピーチ原稿づくりとプレゼンテーションのコツ」＝作文的方法を中心に＝  
愛知県扶桑町立山名小学校 桑原朱美

## 1 2分の1成人式

4年生の総合的な学習で、  
「輝け10歳・2分の1成人式」という取り組み（岐阜大 近藤真庸氏提唱）を行った。本校では、「押入れの中の自分さ



がし」という取材活動から、自分史（過去・現在・未来）をまとめ、スピーチ主体の発表会を行うという形で実施した。

実際のスピーチのようすを紹介する。

バックミュージックがかかると、子どもたちは、順番にマイクの前に立った。自分で選んだ幼い頃の写真が大写しになっている。スピーチを聞いてくださって

いるのは、自分たちの成長にかかわってきた家族や地域の方々、保育園や幼稚園の先生、学校の職員である。

「お気に入りの服」を発表した女の子は、はきはきとした口調でスピーチを始めた。

「私は自分の過去を、このワンピースで（服を高く上げて、右から左へ見せながら）紹介したいと思います。このワンピースを選んだ理由は、ダンボールの中からこれを見つけた時に、（人差し指を頭にあてて）「あ、覚えてる」とすぐに思い出だしただけです。

これにまつわるエピソードを紹介します。このワンピースは、3歳の時に（指で3を示す）着ていました。とても気に入っていて、いつも着ていました。夏の服なのに寒くなっても着ようとしてお母さんを困らせたそうです。

感想をいいます。

この服を体にあててみると、（服を体にあわせて、体の大きさと服の小ささを見せるように体を動かす）もう、私の体の半分も入らない気がします。あまりに小さくつぶくりしました。

3歳の私は、とても小さかったんだなあ

と思いました。これは大切な宝物です。（服を抱きしめる）」

このように、2分の1成人式では、短い時間の中でそれぞれの子もたちが、「幼い頃の自分」への思いをスピーチした。

この実践を例に、発表原稿のまとめ方やスピーチのコツを述べてみたいと思う。

## 2 スピーチ原稿づくりのためのコツ

取材ノートをどうとらえるか

コツ1 取材ノートについて、「きたない文字でもかまいません。ただし、後からそれをもとにまとめをしますので、自分が読める文字を書くこと」という指示をする。

子どもたちは、「ノートはきれいに書くもの」という固定観念が強いのではないだろうか？

総合的な学習においては、こうした意識を子どもたちからはずしてやる必要がある。

子どもたちの活動を見てみると、ノートだけでなく「聞き取りメモ」さえも、ていねいに書くことし、結局は途中で挫

折したり、肝心なキーワードを書き逃してしまったりしていることが少なくない。たくさん情報を一定期間に集めるためにも、ノートをていねいに書いていては作業が進まない。取材ノートは、自由なメモがわりとして使ってよいのだという感覚をもたせたい。

取材ノートから必要な情報を取り出す。

調べ学習 資料の整理 思考の整理

スピーチ原稿作成という流れの中で、自分が調べてきた資料や取材メモから、必要な情報を少しずつ絞り込んで、自分の考えをまとめるという作業を行う。ここで、子どもたちの「書く」力への支援策が必要となってくる。そこで、作文的手法を用いた資料整理をおすすめしたい。

コツ2 資料整理のためのまとめる作業では、子どもたちに「具体的な分量」や「数」を指示する。

分量を指示したり、数を指定したりする方法は、子どもたちの資料整理の方法として、応用範囲が広い。

みなさんが調べてきた「思い出」からベスト3を選んでワークシートに、箇条書き

で書きこみましょう。ひとつの文で、一番伝えたいものが分かるように書きます。

ひとつの文で書くは「分量」をベスト3は「数」を指示している。「分量」や「数」を指示してやることにより、どれくらいの内容にまとめればいいのか明確になる。

スピーチ原稿の作成

コツ3 伝えたいことが伝わる原稿にするために「書き出し」や「文型」を組み込んだワークシートを使用する。

ここでは「ベスト3」のワークシートから、さらに取捨選択をして、一番伝えたいものをわかりやすくまとめる作業を行った。ここで、使用したのは、「書き出しを与える」という作文的方法である。子どもたちが原稿を作ろうとする時に、限られた時間内に伝えたいことを要約して書く、というのは、文章表現能力が要求される。

そこで、スピーチ原稿を作成するためのワークシートに、「書き出し」や「文型」を組み込み、次のような指示をした。

ベスト3の中から、スピーチしたいものをひとつだけ選んでください。

スピーチの時間は、一人30秒から40秒と

します。

できるだけ短い文を書くようにします。

「ベスト3」から、伝えたい内容をひとつに絞込み、それを30秒から40秒の原稿にするのである。この時間は原稿用紙に半分くらいの量である。実際に「書き出し」と「文型」を与えたワークシートの内容を次に示す。

私(ぼく)は、過去の自分を

で紹介したいと思います。

これを選んだ理由は

だからです。次に、これにまつわるエピソードを紹介します。

最後に、感想を言います。

実際のワークシートでは、枠の大きさに

よって分量を指定した。完成したスピーチ原稿をスピーチ練習会で、実際に読んでみる。その目的は、『自分のスピーチを友だちに聞いてもらい、分かりにくい表現があれば原稿を修正する』『スピーチで上手だったところをお互いが参考にしよう』という点である。

以上が、「作文的方法」を中心とした資料整理と構成によるスピーチ原稿作成のコツである。

3 スピーチの実際とプレゼンテーションのコツ

コツ4 スピーチは、「話しかけるつもりで表情とジェスチャーを生かして伝える」よう指導する。

これは、「大きな声でゆっくり」などの従来の指導に比べて子どもたちの工夫を引き出すことができた。

コツ5 「写真」「実物」などの具体物を示して、視覚に訴える。

こうしてできあがったのが、冒頭の「お気に入りの服」についてスピーチである。写真や実物を提示することは、発表を聞く

人に、スピーチの内容をより理解してもらうために有効である。

4 補足

今回紹介させていただいた内容は、健康教育研究会「ひだまり」のメンバーの実践と本校の実践からまとめたものである。

「ひだまり」のHP

<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kai/gan/1429/> (YAHOO検索 ひだまりでヒットします)

参考文献

近藤真庸 『シナリオ形式による保健の授業』

大修館

上條晴夫 『総合的な学習のための教育技術・調べ学習のコツと作文的方法』 健学社